

2026 年度 慶應義塾大学大学院
薬学研究科修士課程（薬科学専攻）
推薦入試

小論文課題

ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）技術は、再生医療のみならず、創薬研究、毒性評価、疾患メカニズムの解明など、さまざまな分野で応用が進んでいる。近年では、患者由来の iPS 細胞から分化誘導した細胞モデルを活用した研究が広がり、ヒトに特有の病態や薬剤応答の再現に向けた取り組みも進められている。

以下について、解答用紙 2 枚以内（800 字程度）で記述しなさい。

ヒト iPS 細胞を活用した研究の具体例を少なくとも一つ挙げ、その内容と意義を概説せよ。次に、この技術が創薬研究にもたらすメリットと限界について、科学のおよび社会的観点から論じなさい。さらに、iPS 細胞技術を今後より有効に活用していくために、どのような技術的・制度的な発展が必要と考えるか、あなたの考えを述べなさい。